

# 市政問答!

## 19 議員が登壇 (一般質問)

### 開通新幹線、活かす阿蘇、急げ基幹道路整備



山内 憲一

に整備し、内牧停車場線から国道212号線まで、道尻の点滅信号から旧町村境のドンガメ川までの部分は、二期工事として、22年度から5年間で整備する計画です。

**山内** 計画を前倒ししてでも進めないで、合併特例債の期限までに終了しないのではないかと。国道との連絡も不十分であるので、そのことも視野に入れ、国、県に訴えていくべきと思う。

他に「新幹線開業に向けたJRの電化をするべきでないか」について質問がありました。

**山内** 平成23年新幹線開業ということであるが、これに併せて国道57号線の4車線化の進捗状況は。  
**塚本建設課長** 57号線の4車線化に向けて工事が行われている所は、立野地区6キロメートルの区間のうち1・7キロメートルです。これの完成が平成22年度です。  
**山内** 瀬田地区3・1キロメートルと立野の残り4・3キロメートルの進捗状況は。  
**建設課長** 瀬田及び立野の残地区については、調査、測量をやっているとのことです。  
**山内** 阿蘇の終点は、大同碎石のところと聞くが。  
**建設課長** 昭和52年度の当初計画ではそうなっていますが、最低でもアーデンホテルの所まで要望していく必要があります。  
**山内** 阿蘇市の幹線道路整備計画はどうなっているのか。  
**渡邊経済部長** 菊池赤水線を起点に6・4キロメートルを23年度まで



国道57号線4車線化工事(立野)

# 市政2期目への意欲と情熱は！



田中 則次

**田中** 合併来3年半が経過し、この間市長は旧町村間の地域、議会、行政の分野でイデオロギーの違いの中、短い期間で良くまとめてこられたと思う。合併当初より黒川上水道、振興公社問題等々予期されないことが生じる中、その姿は市民目線であった。政策面では、行革を始めソフト面からハード面まで、特に財政基盤の安定を計られたことは特筆すべきであり、費用対効果を重視された成果だと思う。この間、市長にとっては三段跳びに例えると助走区間に過ぎなかつたと思うが、次への思い、来年の改選に向けての意欲を伺いたい。

**市長** 新生阿蘇市を公平、公正な社会に築いていくため、真正面から誠実に取り組んできました。その一方、財政基盤の確立は喫緊の課題でしたが、住民生活に必要な事業は前向きに真摯に行ってきました。普通会計の負債を8億4千万円返済し、19年度決算では、財政力指数は安定

しているとの評価を得ています。行政改革を行い、市民の方々の安全、安心、人創りを念頭に置き、全力疾走でやってきました。子育て支援、福祉医療健康の充実、学校を含めた青少年教育と整備、農業、観光地域づくりの振興、環境保全、バイオマス事業、消費生活相談室の充実等々、目標を持ち職員と一緒にねじり鉢巻で実行していますが、未だ道半ばであります。しかるに未来の阿蘇市建設のため、万死に力を入れ一生の計を顧みず再チャレンジし、全ての情熱と力を捧げていきます。



# 事業効果があがる有害鳥獣駆除対策を



市原 新

**市原** 猪、鹿、カラス等の有害鳥獣による農作物の被害が増加しているが、昨年度の実績と本年度の対策を尋ねる。

**山口農政課長** 有害鳥獣の捕獲に

ついては、猿と鹿が県の許可で、猪、カラス等は市の許可として出しています。最長2ヶ月です。昨年度の駆除依頼件数は40件、被害額は水稲、野菜等合わせて約60万円でした。駆除対策班は21班体制で実施、149名の狩猟免許所持者に協力をいただいています。

本年度の対策については、21班体制で捕獲を実施、捕獲隊助成金として72万円を予算化し、有害鳥獣対策費として30万円を計上しています。この他、猿については1頭捕獲毎に3万円を県市合わせて助成、鹿については1頭捕獲毎に8千円を県市合わせて助成しています。

**市原** 駆除依頼件数が40件との説明であったが、実際はこの数値を大きく上回っており、被害金額も甚大

なものがある。ひどい所は、耕作放棄地になっている。猪や鹿の頭数も増え、人里近くまで被害が拡大している。駆除実績に応じた助成金を取り入れる等、駆除隊が十分活動できるように予算の確保と駆除期間を延長して、事業効果をあげていただきたい。

**渡邊経済部長** 事業効果があがるように検討します。

他に「大規模ブロイラー施設整備計画について」質問がありました。(11)

平成19年度有害鳥獣捕獲実績

鳥獣名	捕獲回数	捕獲数
カラス	4	657
スズメ	1	577
ドバト	3	329
サギ	1	98
イノシシ	2	32
ノイヌ	7	19
サル	5	0
シカ	2	6